

ロタウイルスワクチンの予防接種を受けられる方へ

1. 病気について

ロタウイルスによる胃腸炎は、急激な嘔吐と水様性の下痢便を頻回に排泄し、発熱が3割～5割程度みられます。ロタウイルス感染症により世界では5歳未満の小児が年間約50万人死亡しているとされ、その80%以上が発展途上国で発生しています。先進国では死亡例が少ないですが、嘔吐・下痢に伴う脱水やけいれん、腎不全、脳症などの合併のため入院治療に至るケースがあります。重症急性胃腸炎で入院する原因としてロタウイルスが最も多いといわれています。

初回の感染時に重症化しやすく、それを防ぐためのワクチンですので、早く接種完了してください。

2. ロタウイルスワクチンについて

ヒトロタウイルスを弱毒化したワクチン「ロタリックス」とウシ・ヒトロタウイルスのリアソータントワクチン「ロタテック」があります。いずれのワクチンも、流行するロタウイルス株のうち、95%以上をカバーできるとされています。他のウイルスに起因する胃腸炎を予防することはできません。

先進国・途上国を問わずワクチンを導入した国・地域では、ロタウイルス感染症が劇的に減少しています。さらに、直接効果だけでなく集団免疫効果も認められています。

3. 予防接種の受け方

〈対象者〉

令和2年8月1日以降に生まれた人（※令和2年10月1日より定期接種として開始するため）

〈接種方法〉

ロタウイルスワクチンには、「ロタリックス」「ロタテック」の2種類があり、ともに経口ワクチン製剤です。異なる種類のワクチンとの互換性に関するデータはないため、異なるワクチンを交互に接種しないでください。接種はチューブに入った1回分のワクチンを直接お子様の口に入れて行います。（接種直前（30分以内）は授乳を控えましょう。）ワクチンの種類により、対象年齢および接種回数が異なりますので、詳しくは下表をご参照ください。

ワクチンの種類	対象年齢	標準的な接種期間	間隔・回数
ロタリックス (経口弱毒生ヒトロタウイルスワクチン)	出生6週0日後から 24週 0日後までの間にある者	初回接種は、出生 14週6日後まで(※)	計2回 27日以上の間隔をお いて2回経口投与。
ロタテック (五価経口弱毒生ロタウイルスワクチン)	出生6週0日後から 32週 0日後までの間にある者	初回接種は、出生 14週6日後まで(※)	計3回 27日以上の間隔をお いて3回経口投与。

(※) 安全性の観点から、腸重積症の好発年齢を避けるため、15週0日を過ぎた場合は、接種をおすすめしていません。(出生14週6日までに接種を開始することを推奨。)

〈吐き出した場合の対応〉

経口接種後に、接種液を吐き出したとしても、追加の投与は必要ありません。

※ 「対象外」となる人

- 腸重積症の既往歴のあることが明らかな者
- 重症複合型免疫不全症（SCID）の所見が認められる者
- 先天性消化管障害（メッケル憩室等）を有する者（その治療が完了した者を除く。）

4. 予防接種不相当者（次の方は接種を受けないでください。）

- ① 明らかに発熱している(通常は37.5℃を超える場合)または、重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ② このワクチンに含まれる成分によってアナフィラキシー(通常接種を受けた後、30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと)をおこしたことが明らかな方
- ③ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと判断された方

5. 予防接種要注意者（次の方は接種を受ける前に、医師にご相談ください。）

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ② 風邪などのひきはじめと思われる方
- ③ 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ④ 薬の投与または食事で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある方
- ⑤ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ⑥ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方、もしくは先天性免疫不全症と診断された近親者がいる方
- ⑦ このワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方
- ⑧ 母親が妊娠中や授乳中に免疫機能を抑制する薬（免疫抑制薬、膠原病やリウマチの治療薬など）の投与を受けたことのある方
- ⑨ 胃腸障害のある方

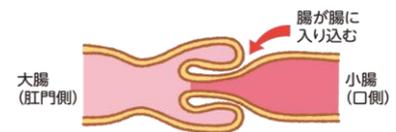
6. 予防接種後の注意と副反応について

- ① 接種後にアレルギー症状が起こることがありますので、接種後はすぐ帰宅せず、少なくとも30分間は安静にさせてください。
- ② 接種後24時間は、副反応の出現に注意し、観察してください。
また、接種後1～2週間の間は、腸重積症のリスクが通常より高まるとする研究報告がありますので、下記の【腸重積症が疑われる症状】に注意してください。
なお、腸重積症で、他の医療機関を受診された際は、接種した医療機関にもお知らせください。

【腸重積症について】

腸重積症とは、腸が腸に入り込み、閉塞状態になることです。
0歳児の場合、ロタウイルスワクチンを接種しなくても起こる病気で、もともと3～4か月齢（出生後12週～16週）ぐらいから月齢が上がるにつれて多くなりますので、ロタウイルスワクチンの接種は、早めに開始し、完了することがすすめられています。

腸重積症は、手術が必要になることもありますが、発症後、早く治療すれば、ほとんどの場合、手術せずに治療できます。以下のような症状が一つでも現れたら、腸重積症が疑われます。



【腸重積症が疑われる症状】

- ・ 泣いたり不機嫌になったりを繰り返す
- ・ 嘔吐を繰り返す
- ・ ぐったりして顔色が悪くなる
- ・ 血便が出る

このような症状に気づいたら、すみやかに接種した医療機関を受診してください。接種した医療機関とは別の医療機関を受診する場合は、このワクチンを接種したことを医師に伝えてください。

- ③ 接種日当日はいつもどおりの生活をしてかまいません。激しい運動はさけてください。
- ④ 主な副反応は、下痢、嘔吐、ぐずり、咳・鼻水、発熱などで、通常は数日でおさまります。高熱やけいれんなどの異常や、アナフィラキシー症状（じんましん、呼吸困難、口唇浮腫、喉頭浮腫等）、腸重積症（※上記参照）に気づいた場合は、接種を受けた医師にご相談ください。また、下記の問い合わせ先にもご連絡ください。
- ⑤ ワクチン接種後1週間程度は便中にウイルスが排泄されますが、排泄されたウイルスによって胃腸炎を発症する可能性は低いことが確認されています。念のため、おむつ交換後などワクチン接種を受けたお子さんと接した際には手洗いをするなど注意してください。特にご家族の中で免疫系に異常のある方がいる場合には、ワクチン接種を受けたお子さんと接したあとの手洗いを徹底するなど注意してください。

7. 予防接種健康被害救済制度について

重篤な副反応が出現する頻度は極めて稀ですが、みなさんが安心して予防接種が受けられるように、予防接種法では健康被害救済制度がもうけられています。

健康被害が生じた場合、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるものなのかの因果関係を予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審議会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合は、法に基づく健康被害給付の対象となります。

お問い合わせ先 守口市健康推進課（市民保健センター3階）
☎ 06-6992-2217